

「八女福島の燈籠人形」公演（国指定重要無形民俗文化財）

- 1 開催日：令和5年9月22日（金）～24日（日）
※口開け公演 9月21日（木）20時00分
- 2 公演時間：①13時30分
②15時
③16時30分
④19時
⑤20時30分（※1回の公演時間 約30分）
- 3 芸 題：「玉藻之前」（たまものまえ）

《解説》

平安時代の後期・鳥羽上皇に仕える玉藻之前という大変な美貌の持ち主で才媛がいました。院の寵愛を一身に受けていましたが、実は尾が九つあったという白面金毛九尾の狐の化身でした。あるとき、清涼殿において催された管弦楽の折、不思議な出来事が起こりました。そこで陰陽博士安倍泰成にその正体を見やぶられ、はるか遠く下野国那須野の原に逃げ去りましたが追討の三浦上総介に討ちとられました。

しかし狐の怨霊は殺生石となって近くを通る人畜に危害を加えるようになりました。その後、百年程経た後深草の治世、高德の僧・玄翁和尚がみ仏の力をかりて杖で殺生石を三度たたくと、さしもの悪鬼も昇天成仏しました。

- 4 開催場所：八女市本町 福島八幡宮境内
- 5 観 覧 料：無料
- 6 交通アクセス：八女ICから車で約10分
- 7 連絡先：八女市教育委員会教育部文化振興課
☎0943-23-1982
- 8 概 要

「八女福島の燈籠人形」は、福島八幡宮「放生会」の奉納行事として、秋分の日付近の3日間で上演されるからくり人形芝居です。当初、山鹿市・大宮神社から燈籠を譲り受け、江戸時代半ばに福島町民が独自の工夫をこらし人形の燈籠を奉納したことが始まりといわれます。当時、大阪方面で隆盛を誇った人形浄瑠璃の技術を取り入れ、現在の形態になったといわれています。

上演の舞台となる屋台は、3層2階建て組立式で、お囃子に合わせて華麗なからくり人形芝居が舞い踊ります。とりわけ人形の橋渡しや衣裳の早変わりなどが見どころです。



たま も の ま え
玉藻之前

～ あらすじ ～

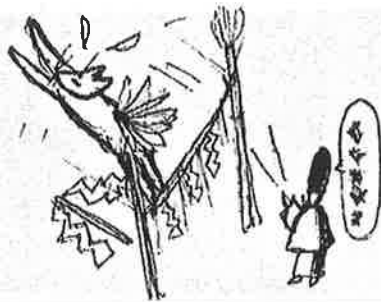
【公演時間 約 30 分程度】



① 平安時代の後期に玉藻之前という女官がいました。玉藻之前は、とても美しく優秀なので、鳥羽上皇の愛情を一身に受けていました。



⑥ 安倍泰成が化けもの退治のお祈りをする、玉藻之前は狐の姿に戻って那須野の原に逃げました。



② 玉藻之前は白い顔、金色の毛、九つに分かれた尻尾を持った狐の化けもので、鳥羽上皇に近づいてこの世を魔界におとし入れようとしていました。



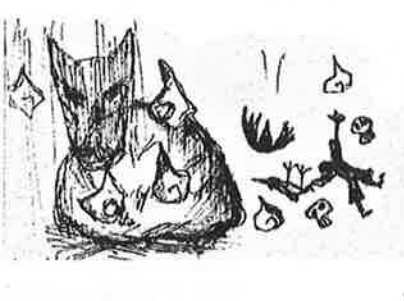
⑦ その後、天皇の命令を受けた武將、三浦上総介が那須野の原に行き、狐の化けものに矢を放って退治しました。



③ ある日、天皇の住む宮殿で管弦楽の宴がありました。そのとき突風が吹いて灯りがすべて消えてしまい、宮中の人たちは大慌てとなりました。



⑧ 退治された狐の怨念は石にとりつき、近寄る人や動物に危害をくわえる殺生石となりました。



④ 宮殿が真っ暗になって大慌ての時、玉藻之前の目が光り、宮殿は昼間以上に明るく照らされました。



⑨ それから百年ほど後の時代に、玄翁という偉いお坊さんが、仏の力を杖に込め、杖で殺生石を三度打ちました。

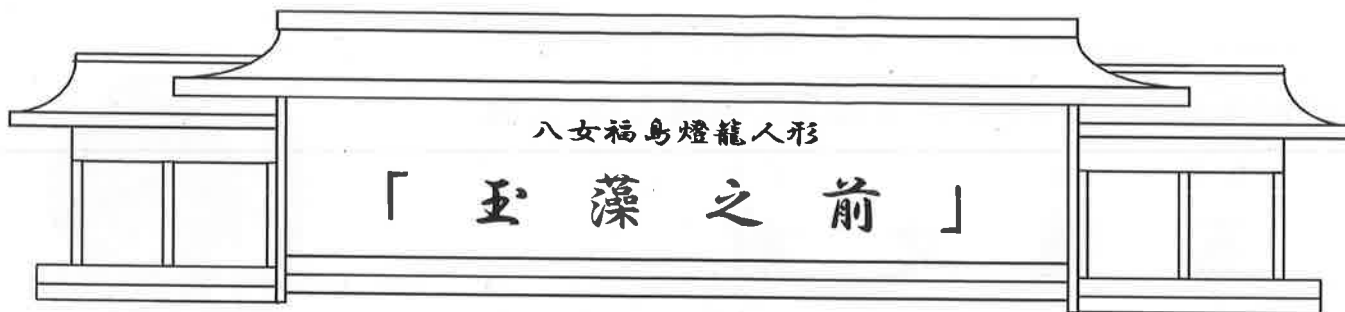


⑤ この不思議な光景を見た陰陽博士の安倍泰成は、玉藻之前が化けものだと思破りました。



⑩ お坊さんの杖で打たれた殺生石は真つ二つに割れ、石の中から狐が飛び出し、成仏して天に昇りました。





〈素抜き〉玉藻之前が狐に変わって
衣装がストンッと早変わり！

最後までサプライズが続きます！
お楽しみに〜♪

変幻自在の狐にご注目！

九尾の狐のお話は、浄瑠璃や能楽、
読本などがあります。日本だけで
なく、中国や朝鮮、ベトナムなど
でも語られているそうです。

舞台に出演する人形のお役どころは・・・？



たまものまえ
玉藻之前（横遣い人形）
美しく賢い女官で上皇に愛さ
れていたが、正体は狐の化けも
の。妖術でこの世を魔界におと
しいれようとしていた。



あべのやすなり
安倍泰成（飾り人形）
※飾り人形は舞台上で動きません
陰陽博士として呪術や祈祷で都
を守っている。玉藻之前を妖怪
と見破り、宮中から追い払う。



じじょ
侍女
（横遣い人形）
玉藻之前の付き人



げんのうおしょう
玄翁和尚（下遣い人形）
殺生石になって危害をくわえ
る狐の化けものを仏の力を借
りて退治した偉いお坊さん。
㊦ 両太金づちの名前もゲンノウ!! ㊦



みつしかずさのすけ
三浦上総介（飾り人形）
※飾り人形は舞台上で動きません
安倍泰成が追出した狐の化けも
のを天皇の命令を受けて那須野
の原まで追いかけて退治した。

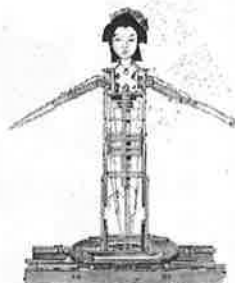


きゅうちゅうどうじ
宮中童子
（下遣い人形）
宮中で雑役をする
子ども

舞台内部はどうなっているの・・・？

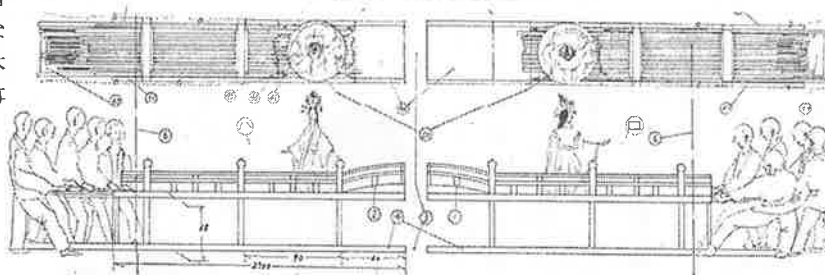
きょうげんかた
〈狂言方〉

人形の遣い手と囃子方
の呼吸を合わせるのが
狂言方です。舞台上下層
でお互いが見えないな
かでも狂言方の拍子木
で間合いを整える大事
な役割です。



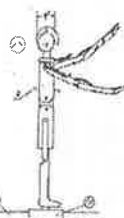
うた はやしかた
〈唄・囃子方〉

物語を語る唄、情景を演
出する三味線、場面にい
るどりを添える鼓など。
仕切り太鼓の絶妙な間
合いに合わせて、それぞ
れが掛け合うお囃子が
聴きどころです。人形の
動きに合わせて進める
ので、生演奏でこない
ます。



よこづか
〈横遣い〉

左右それぞれ6人で動かします。舞台袖の離れ
た所から、こまやかな操作をするのはとても難
しい技です。なかでも人形が左右の橋を渡る
「送り渡し」は横遣いの見せどころ。左右の横
遣いの息の合った操作にご注目！



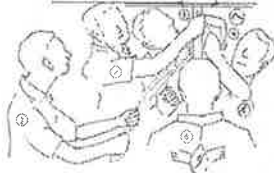
こうけんやく
〈後見役〉

子どもたちが交代で舞台脇から人形
の動きを見守ります。
かつては人形の衣装を直したり、舞台
上の手助けをするのが役割でした。



したづか
〈下遣い〉

舞台の下から6人で一体の人形を動かします。
見上げて操作するので体力いりますよ〜！



いしろうかた
〈衣裳方〉

衣装の早変わり「素抜き」など、
人形の衣装は次々と変化にと
んでいきます。人形の衣装や髪な
どを整えるお世話役です。

